

令和5年度 自己評価表

教育方針	心を磨き、今こそ輝こう「宇南中等PRIDE」	重点目標	個性を尊重する教育の推進 ～思いやりと進取の精神を身に付けた南中生の育成を目指して～
------	------------------------	------	---

領域	評価項目	具体的目標（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	分かる授業を展開し、基礎・基本を定着させ、学力の向上に努める。 ○学校評価アンケート(生徒用)による評価 A:3.4以上 B:3.3 C:3.2 D:3.1 E:3.0以下	A	○学校評価アンケート(生徒用)による評価は3.5であった。	小テストや課題の充実により、基礎・基本の定着、応用力の更なる伸長を目指す。
		出席する、継続することの大切さを理解させる。 ○1か年皆勤率 60%以上 A:60%以上 B:59～55% C:54～50% D:49～45% E:45%未満	E	○1か年皆勤率は40.5%であった。	登校し、授業に出席することの大切さを生徒に引き続き理解させる。
	ICT機器の活用を推進し、分かる授業を通して生徒の学習意欲の向上に努める。 ○南校ティーチャーズウィーク(相互授業参観[年2回])の実施期間中にICT機器を活用した授業 60%以上	B	○南校ティーチャーズウィーク[6月・11月]期間中にICT機器を活用した授業の平均77%	教科の特性等も考慮しつつ、ICT機器の効果的な活用を目指す。引き続き、1人1台端末の積極的な活用に努める。また、相互授業参観週間に取り組みやすい環境作りを行いたい。	
家庭学習の充実	目標に向かって自主的に学習する姿勢を育成する。 ○家庭学習時間 1・2年生 120分以上 A:120分以上 B:119～110分 C:109～100分 D:99～90分 E:90分未満 3・4年生 160分以上 A:160分以上 B:159～150分 C:149～140分 D:139～130分 E:130分未満 5・6年生 200分以上 A:200分以上 B:199～190分 C:189～180分 D:179～170分 E:170分未満	C	○家庭学習時間( )内は塾での学習時間を含んだ数値 1・2年生 95分 (113分) 3・4年生 81分 (101分) 5・6年生 156分 (196分)	アンケートの結果は、保護者、生徒、教員のいずれも、数値は上昇している。しかし、1～5年生については学習時間が増えていない。進路目標に対しての学習時間が適切でない生徒については、各クラスや教科での指導を行いたい。 なお、今年度2回目の学習時間調査については、体育祭の後、新型コロナウイルス感染症の罹患者がかなり多く、他の年度との比較が困難な状況があった。	
生徒指導	生活指導の充実	指導方針を明確にし、全教職員が指導にあたる組織づくりに努める。 家庭・地域及び関係機関等、外部と連携して指導する。 ○問題行動発生件数0を目指す。	B	指導方針に基づき、教職員が連携した指導ができています。 ○問題行動発生件数 前期3件 後期1件	年度初めの生徒指導職員会をはじめ、学年会や職員会議及び職員朝礼などで、教職員間の情報交換をスムーズに行い、常に周知徹底を図り、今後も連携した指導を行うことができるように努める。
	部活動の充実	達成感が得られるように部活動の活性化及び能力向上につながる指導方法の工夫を図る。 ○県総体出場者 前期50人以上 後期120人以上 ○全国大会出場 体育・文化部含め4部以上	B	新型コロナが5類に移行し、活動制限も解除され、以前の活気を取り戻しつつある。 ○県総体出場者 前期82人 後期87人 ○全国大会出場 日本文化部(かるた、囲碁) 弓道部 少林寺拳法 東アジアユース エアピストル日本代表	部活動の位置づけが大きく変化している社会状況を見ながら、生徒へ活動の意義を理解させ、他校との連携を工夫する。
進路指導	進学・就職指導の充実	進学希望者に対して、進路実現を図る。 ○国公立大学合格者 45人以上 A:45人以上 B:44～40人 C:39～35人 D:34～30人 E:30人未満 ○難関国公立大学と医学部医学科合格者 5人以上 A:5人以上 B:4人 C:3人 D:2人 E:1人以下	A	○国公立大学合格者 49人(過年度生1人を含む) ○難関国公立大学と医学部医学科合格者 5人合格	6年生の人数が106人と今までより少ないことを考えると、前期を終えた時点で国公立大学41人合格という結果はよくできていると考えられる。特に難関大学については、受験者は全員合格している。後期試験を受験する者がまだ残っているが、最後まで努力するよう促していきたい。
		就職希望者に対して、進路実現を図る。 ○就職希望者に対する面接 2回	B	早い段階から就職を希望した4人については、公務員3人、学校幹旋での就職1人の就職先が決定した。担任を中心に指導を行った。 ○就職希望者に対する面接 2回以上 年度途中から就職を希望した生徒1人については、希望する職種の求人がなく、卒業後に応募することになっている。	今後も個別に指導する体制をとるが、就職については早めに準備するよう、今まで以上に取り組んでいきたい。
人権・平和教育	人権意識の高揚	差別や偏見のない社会を目指す生き方について共に学ぶ。 慈善活動の企画・参加を奨励する。 ○「人権だより」の発行 月1回	A	「今、自分たちにできること」を考え、今年も人権委員会を中心に、ウクライナとロシア両国並びに世界の平和を願い、栽培面積を広げた中庭でひまわりを栽培、募金活動を実施した。また宇和島市内の子ども食堂等のボランティア活動に積極的に参加する生徒が大幅に増えた。(2月14日現在、141人参加) ○「人権だより」を毎月発行し、人権意識の高揚を図ることができた。	引き続き「今、自分たちにできること」を考え、平和を願う活動や地域と協働した活動を実践し、人権意識の高揚を図りたい。

評価の段階 ( A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった )

領域	評価項目	具体的目標（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	いじめ・体罰・セクシュアルハラスメント等に対する意識を高め、気軽に相談できる体制をつくる。 校外での研修を充実させ、全教職員が共通の意識をもっていじめ防止・発見対応に努める。 ○学校生活をよりよくするためのアンケートの実施 年2回 ○月末アンケートの実施（前期生）	B	いじめ問題等の防止・解決に向けて、教職員研修、生徒への啓発活動、いじめ問題等対策委員会を実施した。また生徒部と連携し、全教職員がいじめ問題について共通認識を持ち、対応についても組織化できるよう、いじめ問題等の報告をシステム化した。運用面やいじめ問題等の解決に向けて課題が残る。 ○学校生活をよりよくするためのアンケートを年2回、また月末アンケート（前期生向け）を実施し、悩みや相談に対して迅速に対応することができた。	いじめ問題等の防止・解決に向けて、引き続き、教職員研修や啓発活動、相談体制を充実させたい。また、いじめ問題等に関しての初期対応を迅速かつ丁寧に組織立てて行い、居心地のよい学校や職場となるよう環境を整えたい。
		道徳・学級活動・ホームルーム活動を活用し、生徒の成長に応じた指導を行い、いじめを許さない集団づくり並びに差別の解消に向けた実践力を養う。 地域と連携した活動に積極的に参加する。	C	昨年度以上の評価となっており、担任の先生方を中心に真摯に人権・同和教育に向き合い、生徒と共に学ぶ姿勢が見られるが、差別解消に向けた実践力や生徒の変容には課題が残る。	人権・同和教育学活、ホームルーム活動では、時代に合った題材や地域教材を新たに設定するなど、学年に応じた指導の在り方を検討していきたい。
健康・安全指導	心身の健康増進	倫理意識の高い職場づくりを推進するとともに、職場で気軽に相談し合える環境を整える。 家庭と連携を図り、健康診断の事後措置を徹底し、疾病の受診率向上を目指すとともに、感染症や熱中症予防に努める。 ○「保健だより」「食育だより」の発行・ホームページへの掲載 毎月1回	B	全ての評価において昨年度以上の評価となっており、おおむね目標を達成できた。 ○「保健だより」「食育だより」を毎月発行し、ホームページにも掲載した。	常に改善策を部員で協議しながら、今年度同様の取組を行っていく。
		特別支援教育校内委員会にて、配慮を要する生徒への理解、共有を図り、教職員、相談員が連携し、柔軟な対応を行う。前期生は「月末アンケート」を実施し、生徒が相談しやすい環境を整える。	C	配慮を要する生徒に対して、教職員で共通理解を図ることができた。生徒、保護者の相談をSLAにつなげ、早期に対応をしたり、月末アンケートに記載がある場合、担任、学年団を中心に連携を図ったりした。	配慮を要する生徒に対しての指導、支援について、教職員で共有したり話し合ったりできる時間を設けたい。
安全指導	安全指導・点検の強化	非常災害や事件・事故、感染症などに対処できるよう役割分担を明確にし、準備・訓練等を充実させる。 地域の防災活動との連携を図る。 ○実践的な防災避難訓練等の実施年2回。緊急地震速報システムを利用した訓練1回、予告無し訓練1回。	A	全ての評価において昨年度以上の評価となっており、おおむね目標を達成できた。 環境委員の生徒が「ぼうさいくたい2023in神奈川」などにも参加し、生徒が主体的に防災についての活動を行った。 ○防災避難訓練等については、予定通り実施した。	南海トラフ地震への備えがより重要になってきている事をふまえ、生徒の防災意識の高揚や、より実践的な避難訓練を実施していく。
		交通ルールの遵守に努め、交通事故を防ぐ。特に、自転車による登下校時のマナーアップに努める。 ○交通事故発生件数0を目指す。	B	委員会活動、街頭指導等から交通マナーアップを呼び掛けた。 ○交通事故報告 7件	継続した指導の徹底を図り、交通マナーアップの向上に努める。
		校内巡視を徹底し、危険箇所等のチェックを行い、迅速な対応を図る。 備品整備の充実等、生徒が安全快適な学校生活を送れるよう環境整備に努める。	B	毎学期の一点検実施のほか、随時安全点検を行い危険箇所の早期発見、早期対応に努めた。	定期的な安全点検を実施し、引き続き危険箇所の早期発見、迅速な対応に努め、生徒が安全快適な学校生活を送れるよう環境整備を進めたい。
図書・視聴覚・情報教育	読書指導の充実	生徒が本に親しみを感じ、読書習慣を身に付けられるように指導する。 ○書籍年間貸出冊数 一人年間6冊以上 A: 6冊以上 B: 5～4冊 C: 3～2冊 D: 1冊 E: 0冊 ○読書冊数 一人年間17冊以上 A: 17冊以上 B: 16～14冊 C: 13～10冊 D: 9～6冊 E: 6冊未満	A	○書籍年間貸出冊数 一人 7.3冊（前期8.4冊/後期6.3冊） ○読書冊数 一人 19.2冊（前期23.3冊/後期15.4冊） （3月10日現在）	読む生徒は何冊も読むが、読まない生徒はまったく読まないという二極化の傾向が目立ち、個人差が大きくなっている。引き続き、図書委員が中心となって図書室の利用を呼びかけるだけでなく、学級活動やホームルーム活動、各教科においても積極的な利用を促し、読書案内のきっかけになるように努める。
		ICT機器を効率よく用いた学習支援システムの研究や環境整備を進め、授業等で活用する機会を増やす。 情報セキュリティ意識の高揚に努め、管理体制を明確にして個人情報等の管理を厳密に行う。	B B	ICT機器を活用した授業等が定着しつつあるが、一人1台端末の利用が集中すると、ネットにつながらないことが少なからずあった。 情報資産の重要度による分類等の周知を図り、校務系を活用した情報管理を徹底することで、情報漏洩防止に努めた。情報セキュリティ研修も実施した。	引き続き、生徒が授業の中でICTを活用する場面を増やし、生徒のICT活用力の向上を図る。そのために環境整備をさらに進める。 引き続き、校務系の活用による重要ファイルの分類等を行い、一層のセキュリティ維持に努める。生徒については、「情報」の授業等を活用し、更に情報セキュリティの意識高揚に努める。
業務改善	適切な勤務時間	働き方改革を推進する。行事や会議の縮減・簡素化、部活動休業日の徹底を図り、最低1回は定時退勤を目指すなど、超過勤務削減に努める。	B	家庭訪問及び定例の運営委員会の廃止、会議時間の短縮、最終勤務者の状況を把握し面談・声掛け、行事に応じた授業時間数の削減、休日の緊急連絡の管理職による対応等を実践し、成果が出てきた。	今後も引き続き、ICTの利用を促進して業務の円滑化やワークライフバランスの向上につながる取組を実施し、教職員のやりがいや意欲を高めるとともに、週1回の定時退勤を目指す。
その他	特色ある学校教育の推進	グローバル・アクティビティ（総合的な探究の時間）を通して、グローバルな視点で地域課題を捉え、解決を図るグローバルリーダーを育成する。 ○各種コンテストへの応募3件以上 ○海外との交流活動や短期語学留学プログラムへの参加 延べ20人以上 ○課題研究活動への大学教授の招へい 延べ20人以上	B	○課題研究活動の成果をまとめ、4件のコンテストに応募や参加をした。（「愛媛大学社会協創コンテスト」「地域づくりアワードユース」「2023年度全国高校生フォーラム」「ソーシャルチャレンジ for High school」） ○海外交流については10人の生徒が参加した。（「オーストラリア短期語学研修（8人）」・「愛媛県教育委員会主催オンライン語学留学（2人）」） ○課題研究活動への大学教授の招へい 延べ23人	課題研究については、生徒の興味関心に応じて、新たに医療・福祉分野の大学教授を招へいして専門性のある研究を行えるようにするとともに、他校との連携を推進して生徒のディスカッション力や発信力を高めていきたい。海外との交流活動の機会を広げるため、民間の非営利団体を積極的に活用していく。
		学校経営・運営に対する理解と評価	保護者と連携し、魅力ある学校づくりを目指して行事の工夫・改善を行う。 ○授業公開日 参観保護者 50%以上 ○PTA総会 参加率 50%以上 ○保護者との交流行事 年5回以上 ○ホームページアクセス数 1日平均 900件以上	B C	○授業公開日の参観保護者は以下の通り。 5月 72.2%、10月 27.0%、1月（2年生）79.2%、全体平均52.6%（昨年度35.6%） ○PTA総会の参加率は23.3% ○保護者との交流行事は5回（PTA総会、PTA研修会、文化祭、少年の日、修了式） ○ホームページアクセス数 1日平均 451件（R6年3月12日現在）

評価の段階（ A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった ）